

## 軽度痴呆患者に対する現実見当識訓練を用いたレクリエーションについて

○松本あづさ（鶴巻温泉病院 リハビリテーション科）  
豊岡直香

本田哲三(MD)・渡名喜良明(MD)（東海大学リハビリテーション学教室）

### <はじめに>

当院の入院患者は高齢であり、様々な疾病・障害を抱えている。その中でも痴呆症状は生活に支障を来し、他者とのコミュニケーションの妨げとなることがある。特に痴呆症状の早期に現れる失見当識は社会からの孤立、単調な生活からなることが多い。そこで私達は痴呆症状の進行防止、予防のためレクリエーション（以下レクと略す）活動の中に現実見当識訓練（reality orientation: RO）を取り入れている。

今回、レク活動におけるROの効果を検討し若干の知見を得たので報告する。

### <ROについて>

ROのテクニックについては1958年、アラバマ州Tuscaloosaにある退役軍人管理局病院で作られ1965年Folsom等によって広く用いられるようになった。

ROは基本的情報（名前・時間・場所）が混乱した人に行われるもので24時間ROと教室ROとの2つがある。今回行った教室RO訓練は以下のようなものである。

### －プログラム－

- ①週5日、一回最低30分間の会合を持つ。
- ②基礎的なクラスは3人～4人のグループ
- ③同じ場所、時間、指導者によって行うこと。
- ④名前・時間・場所等の基本的情報は視覚的・聴覚的に与えるようにする。
- ⑤基本的情報は対象者本人が復唱するようにする。
- ⑥終始一貫した態度で接し、相手を尊重する。

### －材料－

- ①現実見当識ボード：通常、曜日・場所・天候などの基本的情報を提供するもの
- ②時計：対象者が見やすい大きなもの
- ③カレンダー：大きいものと個人用の小さいもの
- ④黒板：説明時に聴覚のみでなく視覚的にも情報を提供する。

## <実施例>

### -対象者-

DSM-III-R診断基準に合致する痴呆患者7名(男性3名・女性4名)年齢64~90歳(平均80.3歳)

### -方法-

訓練は1グループ3~4人、週5回30分間の頻度で4週間行った。訓練内容は日付・時間・場所の教授、それらを含んだレクゲームを施行。

### -効果測定方法-

①改訂長谷川式簡易知能スケール(HDS-R)

②Crichton行動評価尺度(CR尺度)

以上の検査を訓練前2週間から訓練後2週間まで週1回、合計8回測定した。測定者は訓練に関与しないスタッフ1名で行った。

### -結果-

第1グループ:HDS-R増加・CR尺度不変。スタッフの観察では活動意欲・発言力の増加、行動範囲の拡大がみられた。しかし、1症例において身体的不調の訴えを受けた。

第2グループ:HDS-R増加・CR尺度一部増加。スタッフの観察では積極的な参加、活動意欲、発言力の増加、基本的情報に対する意識の向上、活動はにの拡大も見られた。

### -まとめ-

基本的情報に対する意識の向上、発言力の増大などにより、痴呆患者に対しROを含むレク活動により若干の学習効果が期待できる。グループによるレク活動は行動範囲の拡大、活動意欲の向上等から協調性が得られる。今回の施行においては生活への反映はみられなかった。